

ツバメの橋下営巣への適応

○神山和夫¹・平野敏明¹・黒田治男²

(¹バードリサーチ, ²兵庫県揖保郡)

ツバメは人のいる建物に営巣すると考えられていたが、ほとんど人が近づかない橋の下に営巣している例が栃木県、千葉県、愛媛県で見つかった。人が近づかない橋下での営巣は北米で報告があるものの、これまで国内で観察された事例はなかった。栃木県の五行川流域の橋下に営巣するツバメを詳しく調査したところ、ツバメが多く営巣する橋の形状や、橋下での巣の位置について特徴のあることが分かった。

ツバメは、コンクリート製で下部の梁構造の間に幅1mほどの溝が複数ある構造になっている橋に好んで営巣している。このような橋では、ツバメの巣はイワツバメが営巣するような天井部分に位置している例もあるが、ほとんどの巣は溝の側面のやや斜めに張り出した部分に作られていた(図 1)。橋下の溝は梁に区切られた長方形をしており、営巣数が少ない橋ではツバメは橋の中央近くに営巣し、1つの長方形の溝部分には1つの巣しかないと多かった。しかし巣の数が多い橋では1つの長方形の溝内の複数の巣で同時に繁殖が行われており、互いの巣の位置が数10センチしか離れていない場合もあった。

栃木県高根沢町での調査では、巣の多くは川の水面の上方(橋の中央寄り)に作られており、川辺の陸地の上方(橋の両端寄り)にあたる位置にはほとんど巣がなかった。このような位置に巣を作ることは陸上の捕食者に飛びつかれない効果があると考えられるが、人家などに営巣しているツバメには見られない習性である。さらに人家で営巣するツバメに比べると、橋下で営巣するツバメは人への警戒心が強く、橋に人が近づくと警戒音を発して抱卵中の個体まで飛んで逃げてしまう。

ツバメの営巣が見つかった橋のうち竣工年を確認できた橋はいずれも最近十数年以内に建設されているため、橋下営巣への適応は最近になって開始されたか、または以前から営巣はしていたが最近、営巣に適したタイプの橋が増えたことで広がり始めている可能性がある。

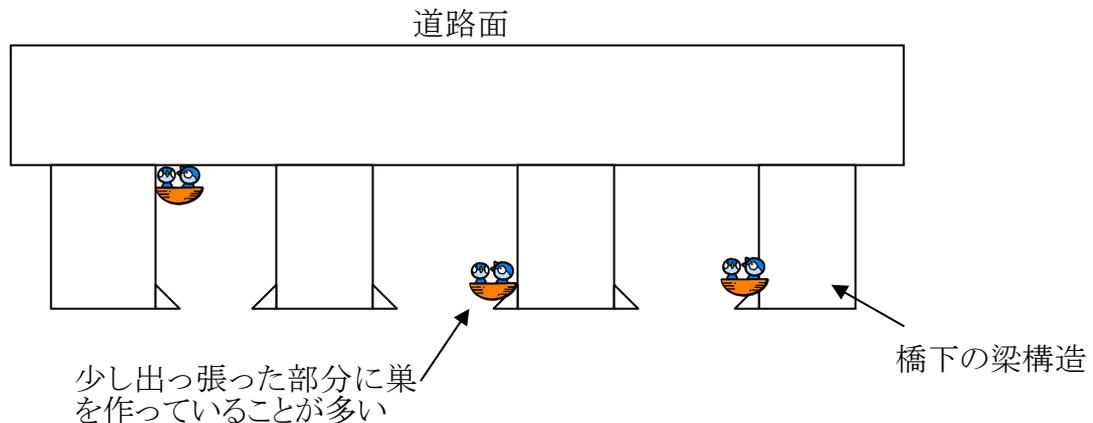


図 1 ツバメが営巣している橋の特徴